

北方領土講座



令和7年度北方領土問題キャッチコピー〔最優秀賞作品〕

語るたびその四島(しま)がまた近くなる



今回は北方領土への墓参の始まり

北方領土への墓参は、人道的観点から昭和39年(1964年)から北海道の事業として始まりました。旧ソ連時代の旅券・ビザ取得の要求などで何度か中断しましたが、昭和61年(1986年)に再開し、その後は択捉島や国後島へも対象が広がられました。現在では日口間の相互訪問事業の一環として行われてきましたが、ロシアによるウクライナ侵攻の影響で、日本政府は令和4年(2022年)4月から当面の実施を見送る方針を発表しています。

墓参の歴史

- 開始 昭和39年(1964年)**:旧ソ連時代、元島民と遺族が歯舞群島・水晶島と色丹島への墓参を初めて実現しました。これは旧島民と遺族が歯舞群島・水晶島と色丹島への墓参を初めて実現しました。これは旧島民に対する人道的な配慮として、日本赤十字社や在日ソ連大使館などへの長年の要請活動によって実現したものです。
- 中断と再開 昭和51年～昭和61年(1976年～1986年)**:旧ソ連が旅券の携行とビザの取得を要求したことから墓参は中断されました。昭和61年に、十数年にわたる交渉の末、11年ぶりに墓参が再開しました。
- 対象島の拡大**:平成元年(1989年)には国後島へ、平成2年からは択捉島へも墓参が開始され、北方四島すべての墓地を訪問できるようになりました。
- 航空機による墓参の実施 平成29年(2017年～)**:高齢化する元島民の身体的負担を軽減するため、航空機を利用した「空路墓参」も行われていました。
- 現在の状況**:令和4年(2022年)4月、ロシアによるウクライナ侵攻を受け、日本政府は当面の北方墓参の実施を見送る方針を発表しました。

現在の活動状況

- 「洋上慰霊」の実施**:北方四島交流事業が実施できていない状況の中、令和5年から令和7年は、故郷を思う元島民のお気持ちを鑑み、船舶「エトピリカ」による北海道本島側からの「洋上慰霊」が実施されました。(令和4年度計10回、令和5年度計6回、令和6年度計7回、令和7年度計7回)また、千島歯舞諸島居住者連盟別海町支部単独で「洋上慰霊」を9月27日、尾岱沼港から国後島との中間ライン付近で「洋上慰霊」を行いました。



単独の洋上慰霊、尾岱沼港にて



礼拝する曾根町長と高橋支部長



千島歯舞諸島居住者連盟別海町支部・公益社団法人千島歯舞諸島居住者連盟共催



返還の声を広げよう。 「北方領土の日」

第5回

クイズ大会



※北方領土クイズに正解すると
抽選で **30名様** に
「別海町特産貝つきホタテ」
1箱が当たります。

※はずれた人の中から抽選で
50名様 に「啓発グッズ」を
プレゼントします。

家族や友達と
みんなで調べて
応募して
下さいネ。
ピー～

※「千島連盟」「北方同盟」「別海町(町の施策)」
のホームページ、国や北海道の発刊物やパンフ
レットなどで、北方領土と調べてみてください。



千島連盟ホームページ

千島連盟別海町支部からのメッセージ

私たちの故郷である択捉島、国後島、色丹島、及び歯舞群島は、祖父伝来の地として受け継いできた我が国固有の領土です。

元島民は、ソ連の不法占拠によって、生まれ育った島々を強制的に追われました。以来、元島民とその後継者が一体となって北方四島の早期一括返還を訴え、北方領土返還要求運動に取り組んできました。私たちは未だに自由に故郷を訪れることができません。約一万七千人の元島民は既に一万二千人以上が他界しており、存命の者もその平均年齢は八十九歳を超えています。

北方領土問題の解決、平和条約の締結に向けた外交交渉は長期にわたり停滞しています。こうした中、ロシアは外交交渉の中断を一方的に表明しました。

元島民と後継者で組織する当連盟は、北方四島すべての返還を願い「北方領土の早期一括返還」をスローガンに活動してきました。今後とも、元島民と後継者の総意をもって、このスローガンのもと北方領土返還要求運動に邁進します。(活動に賛同される賛助会員の入会も承ります)